

はじめに

12月に入ると街は一気にクリスマスモードになり、毎日わくわくしていました。今回は、クリスマスと年越しについてお話ししたいと思います。

クリスマスについて



ディジョンでは12月になるとクリスマスマーケットが行われるようになりました。お店も並び、ホットワインのいい香りがします。広場にはスケートリンクや観覧車、メリーゴーランドが建てられ、日本との違いに驚きます。スケートリンクでは1時間滑ることができ、友達と学校終わりに行ってきました。滑ることは小学生ぶりでしたが、想像以上に楽しかったです。

また、クラスみんなで食べ物や飲み物を持ち寄り、クリスマスパーティーをしました。フランス語でクリスマスの歌を歌ったり、それぞれの国の食べ物を食べたりして、とても楽しい時間を過ごすことができました。

クリスマス当日は、友達と寮でパーティーをしました。チキンやピザなどを買い、クリスマスソングを聴きながら会話を楽しみました。最後には伝統的なケーキのブッシュドノエルを食べ、フランスらしいクリスマスを楽しむことができました。



クラスで行われたクリスマスパーティー

コルマルの旅



学校の遠足で、アルザス地方のコルマルへ訪れました。アルザス地方は、クリスマスマーケットがとても有名で、観光客も多く訪れます。

この地域は昔ドイツの領地であったため、ドイツの文化が残っています。様々な色の建物が建ち並び、普段住んでいるディジョンとは大きく異なる街並みです。また、ハウルの動く城や美女と野獣のモデルになった土地としても有名で、アニメや絵本の中にあるような感覚になります。

街を散策し、ホットワインや塩漬けのキャベツにソーセージがのった伝統料理のシュークルートを食べました。お店の店員さんが民族衣装を着ていて、とてもかわいらしかったです。

夕方にはカイザースベルクという小さな街に向かいました。この地方の建物は15世紀からあると先生が説明していて、とても驚きました。街全体がクリスマス一色になっていて、



カイザースベルク

暗くなるにつれてイルミネーションが輝き出します。

落ち着いた雰囲気といつもとは違う街並みに心が洗われました。

フランスでの年越し

年末年始は、パリへ旅行に行きました。これまでパリに観光目的で訪れたことがなく、ほとんど初めてのパリ滞在になりました。

まず1日目はオルセー美術館に向かいました。オルセー美術館はモネなどをはじめとした印象派やゴッホなどのポスト印象派の作品を多く所蔵しています。

年末ということもあり、館内の人が多かったですが、特にゴッホの作品に人だかりができていたことが印象的でした。



人気のゴッホ



鏡の間

2日目はヴェルサイユ宮殿に訪れました。宮殿のどの部屋も豪華で綺麗ですが、1番の目玉である鏡の間に入ると、その美しさに圧倒されます。細部まで美しく迫力のある建物に目を奪われ、ずっとここに居たいという気持ちになりました。

庭園やトリアノン宮殿も素晴らしく、気がつけば一日中滞在していました。

3日目は大晦日でしたが、ルーブル美術館の予約が取れたため、ルーブル美術館に向かいました。

年末で観光客が多いだろうと考え、まず向かったのはモナリザです。モナリザが飾られている部屋に入ると、想像以上の人だかりができていました。間近でモナリザを見ようと行列に並ぶと、遂に列の最前へ。念願のモナリザは作品から鑑賞列が遠いということも相まって、かなり小さく感じました。今年最後のモナリザをじっくりと目に焼き付けて、その後はミロのヴィーナスやサモトラケのニケなど主要な作品もまわりました。

ルーブル美術館は作品数や館内が信じられないほど大きな規模のため、1日滞在してもすべてを見ることはできませんでした。今度訪れる際は、見られなかったエリアも鑑賞したいです。

年越しはセーヌ川の上で年越しをしました。フランスはクリスマスの飾りやイルミネーションが街に残っているので、日本のように年越しが近づく実感はありませんでしたが、見知らぬ人とカウントダウンをして盛り上がることができました。

まとめ

年始までパリに滞在していたので、1月分のレポートにパリ旅行の続きを記録しておきたいと思います。

また1月に入ったことで、私の留学生活もあと1ヶ月を切りました。後悔のないようどんどん行動して、留学生活を終えたいと思います。